



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

横浜市立丸山台小学校 学校だより

2月号

令和5年1月31日(火)

夢を叶える

副校長 足立 憲昭

春が近づいてきましたが、まだ寒い日が続いております。校庭の「くすのき」も春を待ちわびているように感じられます。

先日1月24日(火)に、5年生の心の教育ふれあいコンサートの引率で横浜みなとみらいホールへ行ってきました。コンサートでは、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏を聴き方のマナーを守りながら、味わって聴く子どもたちの姿が見られました。音楽を聴きながら楽しそうに軽く体や腕を動かしたり、指揮者が指揮をする姿をまねてみたりと子どもらしい姿もありました。演奏曲目は、行進曲「威風堂々」や交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」、「ハンガリー舞曲第5番」をはじめとした、どこかで聴いたことがあるお馴染みのクラシック曲でした。

演奏の幕間では、楽器の紹介やパイプオルガンのクイズなどが行われました。その中でも私が心に残ったのは、指揮者の小林雄太さんのお話でした。小林さんは、幼少より音楽を学び、研鑽を積んできました。そして、2022年10月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者に就任しました。お話によると、小林さん自身がみなとみらいホールで、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏を客席から聴いていた時期があったそうです。そのときに「自分もここで指揮をしたい」と強く夢を描いていたというお話をされていました。夢を叶えるために、あきらめることなく努力を重ねてきた小林さんの言葉に力強さと爽快さを感じました。同時に、丸山台小学校の子どもたちが自分の将来の夢を叶えていくために、小学生の基礎固めの時期から地道に、そして着実に力をつけるように支援していきたいと改めて考えました。

さて、子どもたちが自分の夢を叶えるには、苦手なことにも挑戦しなければいけない場面も出てくるのが予想されます。それには、苦手でも継続して取り組む粘り強さが鍵となってきます。また、困難を乗り越えるための努力の仕方、課題を解決するための合理的な方法の選択もしていかなければなりません。これは、学習調整力とも言えます。学校では、学校教育目標を軸に子どもたちが知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けて、粘り強く、合理的、科学的な思考をもとに自らの学習を調整しようとする力の育成を目指して活動しています。この日々の教育活動の地道な積み重ねが子どもたちの将来の夢に繋がっていきます。また、ご承知のとおり学校だけではなく、保護者の皆様や地域の皆様からの継続した子どもたちへの支援が不可欠となります。夢を叶えるまでの見通しをもち、合理的な判断のもと軌道修正をする柔軟さと、粘り強さを兼ね備えている。そんな子どもたちの将来の姿を私自身が夢見ています。子どもたちの将来の夢は、成長していくうちに変わっていくかもしれませんが、(発達段階に応じて変わっていくのも成長です)子どもたち一人ひとりの将来の夢への基礎固めの時期を保護者の皆様や地域の皆様と共に引き続き、職員一同支援していきます。

令和4年度の第4期「まとめと次の準備」に入った本校へのご協力を、2月もどうぞよろしくお願いたします。